

2017年度学校評価報告書(香里ヌヴェール学院中学校・高等学校)

学校目標	多様性と課題に満ちた世界の中で、“神の手足となり、人々の心を平和のうちにつなぐ人”として仲間のために生きる人を育てる。 本校で学ぶ子どもたちが、多様性と課題に満ちたこれからの世界の中で、“神の手足となり、人々の心を平和のうちにつなぐ人”として仲間のために生きるには、真理を探究し続ける力と、幸せを実現するための最適解を仲間とともに創り出す力を育むことが必要である。知識・情報・智恵を活用し合い、互いの持つ力を引き出し合い、仲間とともに最適解を創り出す経験を、子どもたち自身が豊かに積み上げていけるよう、21世紀型教育を軸にした学びの場を提供していく。
------	--

21世紀型教育	
英語教育	世界の人々と、平和の実現にむけた対話を深めるツールとしての英語力を養成
探究型教育	世界の仲間と協働し、多様な価値観や能力を引き出し合い、真の幸せの創造へと昇華していく力を養成
ICT教育	世界中の人々に、平和の実現に有効な情報や主張を発信する表現力を養成

学校自己評価			
重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
21世紀型教育実践による教育充実（PBL・英語教育・ICT教育）	①課題解決・探究型授業の実践	学年進行に合わせたPBL型授業の導入・実践ができたか。	○ ・中学校1年生、高校I年生 新コース体制によるICT機器を用いたPBL型授業を実践。PBLのベースとなるスキルを定期的かつ系統立てて修得する時間を設け、各教科の授業の中でそのスキルを利用。 ・中学校2年生、中学校3年生 従来型コース制（文理総合コース・英数特進コース）に、英語・国語・数学PBL型授業を段階的に導入・実践できた。 ・高校II年生、高校III年生 従来型コース制（国際総合コース・スーパー英数コース）での知識集積型受験への対応を軸に、総合的学習の時間や各教科授業の一部においてPBL型授業を実施。
	②英語教育の充実 <中1SEC>英語イマージョン教育の実施（TTでの授業）	イマージョン授業の円滑な導入と実施ができたか。（ネイティブ教員の英語を聞き行動できるか。）	○ ・中学校1年生SEC（スーパーイングリッシュコース） 英語イマージョン教育を音楽・美術・総合的学習の時間（グローバルゼミ）・学級活動において実施。 1学期終了時点で、ネイティブ教員によるノーマルスピードの英語の指示を、正確に聞き取り行動できた。学級活動で、日本人教員の助け無しに指示を聞き取り行動できるようになった。
	<中2、3>習熟度別授業の継続	習熟度別授業を効果的に実施したか。（英検等の指標による英語力のアップが確認できたか。）	○ ・中学校2・3年生 習熟度別授業の継続実施により、特に中3での英検2級取得者、準2級取得者が増加した。
	・<全校>Skill & Structure、アウトプットを意識した授業展開	授業内での英語使用比率を教師、生徒ともに8割以上にできたか。	△ 日本人教員による英語授業は8割以上英語を使用しアウトプットの時間を積極的に導入した展開で実践。
	・<全校>6年間TOEFL（TOEFL primary, TOEFL junior, TOEFL 受験）を英語運用能力の指標として利用	年2回のTOEFL primaryまたはTOEFL juniorの受験で、2回目のスコアを上げることができたか。	△ TOEFL primaryまたはTOEFL juniorのスコアについては個人的な伸びはあるものの、全体としての著しい上昇は見られなかった。受験に対するモチベーションのアップと取り組みの目的を明確に意識させることが課題である。
	③ICT教育の導入と実践	タブレットを探究型活動、アダプティブラーニングのツールとして有効利用できたか。	△ 探究活動における情報共有・情報収集・プレゼンテーションや教科指導の中での意見交換、個別課題の配信や宿題の提出に積極的に利用できたものの、アダプティブラーニングのツールとしての十分な活用には至らず、次年度への課題と考える。
教育のレベル向上	各種教員研修の実施	各種研修の実施の有無	○ ・PBL型授業づくりのための全体教員研修を年6回 ・ICT活用授業研修を一人平均年3回 ・専門家による評価表（思考コード、思考レベル表）に基づく授業参観と事後指導を学期に1回～2回実施 ・各学期の宗教研修、聖書読書会6回、黙想会1回実施 ・人権研修、生活指導研修、教育支援研修各1回実施 ・他校教員との授業検討会の開催 今年度は、評価表（思考コード、思考レベル表）に基づく生徒による授業振り返りと評価の機会を持てなかった。次年度の実施が課題。
教育環境の整備	生徒増に対応する、安心・安全・快適な環境作り	各種設備の新設や増設、人員の増員と確実な配置ができたか。そのために必要な工事や教職員採用を行ったか。	△ ・防犯防災設備（防犯カメラ設備）の点検と修理を実施 ・備蓄品倉庫拡充、緊急トイレ備品完備 ・防火設備定期検査（法令による）実施 ・プール更衣室の壁改修終了 ・守衛業務の強化（守衛の増員）…常時二人体制を実現、校内巡回の回数増 ・設備の点検と改修…建築検査不具合改修（法令による実施）完了 ・2018年度にむけて男女ともトイレを増設。 ・トレーニングルームの改修とエアコンの設置により、大人数一斉収容可能な多目的空間を確保 ・BC棟3階の耐震改修工事着工を決定。生徒増にむけ十分な教室数の確保。 ・生徒数、クラス数の増加に合わせ、必要な教員数を確保。 ・理科実験器具や薬品の管理体制強化→理科実験助手の配置は実現できず、次年度への課題。
募集・入試に係る事業	中学校の定員充足のための積極的広報活動	中学校の定員（75名）充足	△ ・香里ヌヴェール学院小学校からの内部進学者は21人（昨年18人）に増加 ・京都聖母学院小学校からの内部進学者は6人（昨年0人）に増加 ・他小学校からの入学者は29人（昨年は20人）に増加。 入学者数は昨年度より増加するも、75名の定員充足にはいたらず。
	高校の定員充足のための積極的広報活動	高校の定員（140名）充足	○ 併願者の戻り率が府下平均を大きく上回ったこともあり、定員を超えて240名の入学。

学校評価アンケート

保護者アンケート	
1	子どもは学校生活を通して、キリスト教（カトリック）精神への理解を深めたようだ。
2	宗教（道徳）の時間や練成会は、子どもが自分の生き方や人とのかかわりについて考えるのに役立っているようだ。
3	ミサなどの宗教行事を通じてキリスト教の考え方や価値観に触れたことは、子どもの情操面・精神面の成長に良い影響を与えている。
4	共学になり学校がよりよくなってきていると感じる。
5	子どもは学校のきまりや方針を理解し、実践している。
6	子どもは授業を通じて知識が増え、新しい視点や考え方を身につけることができたようだ。
7	学校の小テストや宿題の量は、家庭での学習を充実させるのにちょうどよい。
8	各教科で実施している小テストや再テスト・補習などは、子どもの学力の定着に役立っている。
10	英検や漢検、その他の資格取得は学習を進める上で、大きな励みになっているようだ。
11	学校の英語の授業は「読む・話す・聞く・書く」の4つの力が バランスよく習得できるように工夫されていると思う。
12	学校で紹介される長期・短期留学、語学研修・タイやフランスの学校との文化交流、タイ国際ボランティアなど、国際感覚を養う機会を積極的に活用できた。
13	授業や留学生との交流などを通じて、子どもはグローバルな視点を持てるようになってきていると思う。
14	言葉遣いや身だしなみなど、社会生活に必要なマナーが身につけてきたと思う。
15	避難訓練を通して、防災意識が高まったようだ。
16	7月のSNSに関する講演をきっかけに、娘の携帯電話やスマホの使い方が変化したようだ。
17	学校の施設設備の安全管理・不審者の進入防止等は適切で、安全に、また安心して学校生活を送れている。
18	学習環境の面で、施設・設備に満足している。
19	個人面談等を通じて、担任・教科担当の先生と、進路指導やサポートの方向性を共有できている。
20	体育祭・音楽祭・文化祭等の学校行事やクラブ活動などを通して、リーダーシップや協調性を高めることができた。
21	子どもは学校でよびかけられるさまざまなボランティア活動に参加していた。
22	学校でのさまざまな活動を通して、誰かの役に立ちたい、社会に貢献したいという気持ちを持つようになった。
23	子どもの学校生活は充実していたようだ。
24	この学校に入学させてよかったと思っている。

生徒アンケート	
1	学校生活を通して、キリスト教（カトリック）精神への理解が深まってきたと思う。
2	宗教（道徳）の時間や練成会で、自分の生き方や人とのかかわりについて考えることができた。
3	ミサなどの宗教行事を通じて、キリスト教の考え方や価値観に触れることができた。
4	共学になり学校がよりよくなってきていると感じる。
5	学校のきまりや方針を理解し、実践している。
6	授業を通じて知識が増え、新しい視点や考え方を身につけることができた。
7	小テストや宿題の量は、家庭学習を充実させるのにちょうどよい。
8	各教科で実施している小テストや再テスト・補習などは、学力の定着に役立っている。
10	学習計画を立てる際、英検や漢検、その他の資格取得は大きな目標となっている。
11	学校の英語の授業は「読む・話す・聞く・書く」の4つの力が確実に習得できるように工夫されていると思う。
12	学校で用意されている長期・短期留学、語学研修・タイやフランスの学校との文化交流、タイ国際ボランティアなど、国際感覚を養う機会を積極的に活用できた。
13	授業や留学生との交流などを通じて、多様な価値観や文化に触れたと感じる。
14	学校では、言葉遣いや身だしなみなど、社会生活に必要なマナーについて教わっている。
15	避難訓練を通して、防災意識を高めることができた。
16	SNSに関する講演を聴いて、携帯電話やスマホの使い方に気をつけるようになった。
17	学校の施設設備の安全管理・不審者の進入防止等は適切で、安全に、また安心して学校生活を送れている。
18	学習環境の面で、施設・設備に満足している。
19	個人面談やその他のさまざまな機会を通して、先生には十分に話を聞いてもらっている。
20	体育祭や音楽祭・文化祭等の学校行事やクラブ活動などを通して、リーダーシップや協調性を高めることができた。
21	ボランティア活動に積極的に参加した。
22	さまざまな学校活動を通して、自分の存在が誰かの役に立っていると実感できた。
23	学校生活は充実している。
24	本校に入学してよかったと思っている。

学校関係者評価

・共学化で生徒数が多くなり活気が出たことはとてもよかった。活動内容の幅が広がり、多様な価値観に触れられることは、生徒たちの視野の拡大に有益だ。  
 ・新入生にとってはミサや式典は初めての経験で、振舞いやマナーは丁寧に指導する必要があるのではないか。  
 ・校則を守る意識を啓発する必要があるのではないか。  
 ・共学化に伴い校則等の見直しが必要ではないか。

・テスト前など、個別に質問に行くと答えもらえることで、生徒達の自主学習意欲が高まっているようだ。中学時代に比べ、学習に対する意識がかなり高まっているようだ。

・家で学習はまだ余力があるようだ。自主的に深く学べるような課題を出してほしい。  
 ・長期休暇中の宿題は教科間のすりあわせをすべきではないか。演習に偏ったり、研究発表に偏ったりしているのでも量をこなすのに精一杯になり、深い学びを追求できていないように感じる。

・(スーパーイングリッシュコース)今以上に留学生との交流時間を増やしたり、校外学習等でのコミュニケーション力を高める活動を組み込んだりしてほしい。

・留学についての説明は早めに、また目的も含め詳しい内容を教えてほしい。留学に関する説明会の回数が増えてもよいのではないかと。

制服の着こなしが乱れてきているように感じる。丁寧に細かく指導する必要がある。

・食堂を設置してほしい。食堂の実現が難しければ販売のメニューや売店の数を増やしてほしい。

・少人数のときと同様にきめ細かい指導を希望する。  
 ・クラス人数が多いため期待したほどの面談回数ではなかった。進路への意識付けなど積極的に考えられるようにサポートしてほしい。

・12年間通わせて本当に良かった。  
 ・高校から入学し、よいことばかりではなく嫌なこともあったようだが、その都度先生方が支えてくださり、ハードルを乗り越える力を身につけてこられたと思っている。信頼できる先生や友人に出会えてよかった。